天遊 TenYou
大阪教育大学広報誌
OSAKA KYOIKU UNIVERSITY
PUBLIC INFORMATION MAGAZINE
Summer 2016 Vol.38

新任役員紹介
松岡 正和 理事

男女共同参画推進コラム
手をつないで Vol.13

卒業生CATCH!
「今に活きる、大学で学んだ力」

STUDENTS NOW!

ラボ訪問

BAGの中身

附属学校園ウォッチ

ゼミ室こぼれ話

TOPICS

特集

日本の教育をリードする4大学 夢の競演
「HATOプロジェクト」

大教大 NAVI 天

アプリを利用すれば、今号の「天遊」に関連した動画が視聴できます。

「大教大NAVI」アプリをダウンロードして、左記のアイコンと同じボタンをアプリ内でタップするとカメラ画面に切り替わります。次に左記のアイコンをカメラに読み込ませると、動画が視聴できます。
詳しいアプリの使い方はホームページをご参照ください。

国立大学法人
大阪教育大学

日本の教育をリードする4大学 夢の競演

HATOプロジェクト

HATOプロジェクトのロゴマーク

HATO4大学の学生を、それぞれのスクールカラーに彩られた鳩に見立て、並んで巣から広い世界へと飛び立つ様子を表しています。

Ⓗ北海道教育大学、Ⓐ愛知教育大学、

Ⓣ東京学芸大学、そしてⓄ大阪教育大学。

日本を代表する大規模教員養成系4大学がタッグを組み、

教員養成教育を新たなステージへと押し上げる。

大学間連携による教員養成の高度化支援システムの構築
― 教員養成ルネッサンス・HATOプロジェクト ―

▶ HATO4大学が連携し、「新たな学びを支える教員の養成と、学び続ける教員像の確立」という教員養成系大学共通の課題を解決へと導く

▶ 全国の教員養成系大学・学部とネットワークを構築し、教員養成のさらなるレベルアップを図る

HATOプロジェクトは、社会変革に対応できる人材の育成を求める時代の要請に、連携による英知の結集という形で応えるため、平成25年3月に発足しました。

現代の教育課題に対して、各大学が先導的に進めてきた取り組みなどを16のプロジェクトにまとめ、連携・協力しながら推進しています。これらのうち、本学が主体的に取り組む2つのプロジェクトをご紹介します。

PROJECT 01

教職基礎体力を備え国際感覚に優れた教員の養成充実に向けた改革プロジェクト

グローバル化が進む社会に対応できる教員を養成するため、HATO4大学が連携し、TOEFL®、TOEIC®などの外部試験を活用した外国語学習のサポートと、小学校での外国語活動をテーマにした共同研究を実施しています。学内に「外国語学習支援ルーム Global Learning Community（GLC）」を開設し、学生同士の学びあいを大切にしながら、チャットやアカデミック・ライティングなどの活動を展開しています。

イベントリポート

英語の世界へようこそ！ イングリッシュ・デイキャンプを開催

遊びを通して生きた英語を学ぼうを合言葉に、小学生3・4年生を対象とした「イングリッシュ・デイキャンプ」を開催し、約70人の児童が英語の世界を体験しました。HATO4大学から集まった学生24人がスタッフとして企画運営にあたり、外国人留学生も参加しました。

ドラゴンテイル
ズボンのお尻につけたカラーリボンを龍のしっぽに見立て、獲得したリボンの数を競い、英語の数字を覚えました。

フリスビー
フリスビーの数を英語で数え、遊ぶ際の4つのポイント、Point（目標を定め）、Softly（力まずに）、Stop（静止して投げる）、Sandwich（両手ではさんでつかむ）を覚えました。

国旗DEかるた
世界各国の国旗を使ったかるた遊びを通して、英語の国名を楽しく学びました。

オリジナルネームプレートづくり
アルファベットを覚え、オリジナルのネームプレートを作成しました。

大阪教育大学
Carolineさん（フランス出身）右 &
Duongさん（ベトナム出身）左

北海道教育大学　大山夏希さん
GLCのジョン・トムセック先生が全身全霊のハイテンションで子どもたちに挑むのを見て、先生が全力で楽しんでこそ、子どもも全力で楽しめるのだと気づきました。わたしも、楽しくわかりやすい授業ができる先生になりたいです。

愛知教育大学　近藤朱羽也さん
大教大のみんながたこ焼きでもてなしてくれるなど、他大学の学生とも親睦を深められ、みんなの意識が一つになったことで、最高のイベントを創り上げることができました。

東京学芸大学　広森敦志さん
ジョン先生の授業テクニックはとても勉強になったし、直に子どもとふれ合う機会を持つこともでき、本当に来てよかったです！

Caroline：企画段階から学生主体で進めて、ゲームの内容も子どもの目線に立って決めていったのがよかったと思うの。

Duong：わたしたちは教えることも初体験。でも日本人学生のみんながサポートしてくれて、話し方や聞き方、それにどんな表情をすればいいかもアドバイスしてくれたわ。

C：当日は、世界の国旗でかるたとりをして、英語で国名を学ぶゲームを担当したの。子どもたちは楽しそうに、「One more time!」なんて覚えたての英語を使っていたわ。

D：さすが日本の子どもたちはレベルが高いわね！ わたしも元気をもらったわ。

C：ランチタイムでは、わたしがご飯のお供に持参したコーラに子どもたちがカルチャーショックを受けていて、わたしもカルチャーショックだったわ！

D：食文化の違いって面白いわね。

C：他大学の学生とも、イベントのことだけじゃなく、それぞれの都市の特色や方言、たこ焼きのレシピの違いまで、いろんな話をしたわ。

D：日本の学生はもちろん、わたしたちも、英語を使う教育法の勉強ができてすごく価値のあるものだったわね。

C&D：またぜひ参加したいわ！

PROJECT 02

安全・防災教育のプログラム開発プロジェクト

平成13年に起きた、本学附属池田小学校事件を受けて創設された「学校危機メンタルサポートセンター」が中心となり、子どもの安全教育に活用できるデジタル教材を開発しています。現在、HATO4大学の各附属学校で実証実験を実施しており、学校現場における危機管理と安全教育のグローバルスタンダードを確立し、全国に展開していきます。

パソコンやタブレット端末を使って、さまざまな生活シーンにおける危険を察知し、身を守るための方法をクイズ形式で学習します。

新任役員紹介

松岡（まつおか）正和（まさかず）理事に聞く!

生まれも育ちも東京都、生粋の下町っこです。大阪で暮らすのはこれが初めて。「大阪の人はせっかちで、運転マナーも荒っぽいとよくテレビなどで耳にしていましたので、身構えて乗り込んだのですが、皆さんきちんとマナーを守っていてアレレという感じ。わたしの方がよっぽどせっかちですよ」といささか拍子抜け。「でもおばちゃんはすごくパワフルで、圧倒されています」と笑います。

大学卒業後、東京大学職員として社会人生活をスタートした松岡理事。文部科学省に転任してからは、大臣官房会計課財務分析評価企画官など財務畑を歩み、出向先の国立科学博物館や東京国立博物館では、天皇陛下訪問の際の案内役も務めました。その後も、広島大学で副理事、独立行政法人日本スポーツ振興センターではスポーツ振興事業部長と、多彩な機関を渡り歩き、生涯学習政策、高等教育、スポーツ・文化行政など、文部科学省の主要局をカバーするオールマイティーぶり。本学でも総務担当理事として、多角的視点からの采配が期待されます。

着任前の本学の印象を聞くと、「柏原キャンパス移転統合問題」を真っ先に挙げました。大阪府下に点在する三分校を現柏原キャンパスへ移転統合するため、1975年に購入した土地が、遊休化していることを会計検査院に指摘されていた問題です。「入省当時わたしは会計課にいましたが、こう着状態が続き、移転は難しいと思っていました。1994年に移転が完了した時は、どんな大がかりなことも為せば成るものだと希望をもらったものです」と感慨深げに語りました。そして、本学名物の山まで届きそうな長いエスカレーター。初めて訪れたときは、感動のあまり写真に撮り、早速家族や友人に送ったとか。

そんな松岡理事の教員養成に対する考えは、C.マルクスの言葉『教育もまた、教育を必要としていないだろうか?』。「日本の教育制度は、確固たる基盤を築いていて、その質はほかの先進国に勝るとも劣りません。財務省が小中教員の大幅削減や教育制度の改善を提言していますが、財政論や一時的な流行で簡単に制度を変えるべきではないと思っています」と断言しました。ただし、「時代に対応しない、現場ニーズに合わない学生を教育現場に送り出すわけにはいきませんから、教育者が絶えず教育を受けられる仕組み作りが必要で、それは、栗林澄夫学長の推し進める連合教職大学院や博士課程設置構想に通ずるものだと認識しています。栗林学長の考える改革案を実行していくこと、それがわたしの役割です」と語りました。

趣味は日本スポーツ振興センター時代から収集しているピンバッジコレクション。その数は1000個を超え、中には2008年大阪五輪招致のピンバッジというまさに幻の一品も。中でもお宝は各五輪大会の記念ピンバッジ。「リオ五輪もテレビ局や新聞社がいろんなバッジをつくるので楽しみです。大教大のもぜひつくってほしいなあ」と収集家としての顔をのぞかせていました。

男女共同参画推進コラム

手をつないで Vol.13

くるみん認定取得と本学の男女共同参画推進の取り組みについて

本学は昨年（平成27年）、厚生労働大臣から「くるみんマーク」の認定を受けました。「くるみんマーク」とは、子育て支援など一定の基準を満たした企業や法人などに認定されるものです。

認定に当たっては、9項目ある認定基準すべてを満たす必要があり、1項目でも欠ければ認定されません。さらに、審査はすべて書面で行われるため、取り組みの詳細な記録や明文化された就業上の規則の提出が必要となります。そのため、優れた取り組みを行っている企業や法人であっても、認定を受けられない場合が多々あるようです。

認定された本学にも、まだまだ課題はあります。昨年教職員を対象に実施したアンケート調査では、職場環境について厳しいご意見もいただきました（詳細は本学ウェブページより「男女共同参画報告書」をご覧ください）。また、本学の女性大学教員比率は国立86大学中5位と高い割合ではありますが、それでも25.3%とまだ4分の1程度にとどまっています。これに加えて管理職や教授に占める女性比率もさらに高め、活躍を促進できるよう、中長期的な視点を持って引き続き取り組みを進めていく必要があります。

くるみん認定は、次世代育成に資する職場環境を構築している企業・法人に認められるものであり、社会や学生への取り組みについては考慮されていませんが、本学では「男女共同参画推進指針」及び「行動計画」を定めて、教職員の男女共同参画推進に加え、社会や学生への支援や啓発を行っているところです。高等教育を取り巻く現状には厳しいものもありますが、多様な人々が個々の能力を発揮できる教育・研究環境、職場環境構築のため、関係教職員や学生、地域社会と連携協力し、取り組みを進めていきたいと考えています。

男女共同参画推進会議企画専門部会　事務担当　**九鬼 志郎**（人事課福祉係長）

卒業生 CATCH!

そつぎょうせいキャッチ!

大阪教育大学を卒業して
社会で活躍するOB・OGに
近況や学生時代のアレコレを
インタビューしてきました。

「いつもわたしが歌っている校歌とは別の曲みたい」と歓声が上がる、大喝采の出張コンサートでした。昨年12月、大阪市立五条小学校の体育館のステージに、総勢120人のオーケストラ合唱団が集結しました。タキシードとカクテルドレス、ではなく、詰襟とセーラー服に身を包んだ彼らは、大阪府立夕陽丘高校音楽科の生徒たち。約720人の児童の前で、『カルメン』や『ハンガリー舞曲』といったクラシックの名曲から『ドレミの歌』など親しみのあるものまで多彩な曲目を披露し、とりわけ、クラシック風にアレンジした五条小学校校歌は子どもたちの心をつかみました。この編曲を手がけ、指揮を担当したのが、今回の主役、鈴川了指導教諭です。

同校は府立高の中で唯一の音楽科があり、音楽科教育の拠点校の機能も果たしています。音楽教員も4人と充実しており、鈴川指導教諭はその中で作曲を担当しています。面白いと思ったものはどんどん授業に取り入れるのが鈴川指導教諭のスタイル。現在はタブレット端末を使って、童謡詩から新たなメロディをつくる創作授業を展開しています。「練習でも、自分で作曲した音をグラフ化できるソフトを使ってわかりやすくすることで、楽譜が正確に読み書きできなくても、作曲に興味を持ち、チャレンジできます」と語ります。

講師時代を含め、今年で教員生活16年目を迎えますが、教壇に立ち続けてわかったことは、“本気”の授業をすれば生徒も応えてくれるということでした。「授業に興味が向かない生徒に対して、どのように接すればよいか苦労することもありましたが、演奏テクニックはもちろん、音楽の理論や歴史など、これまでに身につけた知識や技術を、さまざまなツールを駆使してわかりやすく伝えることで、授業に集中してくれるようになりました」と確かな手ごたえをつかんでいます。その授業づくりの土台には、大学で学んだ専門知識がものを言っているようです。

「今に活きる、大学で学んだ力」

鈴川 了さん

SUZUKAWA　RYO

大阪府立夕陽丘高等学校指導教諭
（2000年度大阪教育大学大学院芸術文化専攻修了）

「作曲というと、天からひらめきが降ってくるようにイメージされる方もいるかもしれませんが、メロディを断片から膨らませるにはちゃんと決まり事があるんです。納得したものをつくるには、下地となる膨大な知識が必要で、学生時代はその地道な勉強に明け暮れたものです」と当時を振り返ります。「ゼミ発表でも、楽器演奏や合唱であれば、多少不出来でもやり過ごせますが、作曲は曲そのものが生まれなければどうしようもない。胃の痛い時を過ごしたこともありましたが、あのがむしゃらに学んだときがあればこその今なので、大学には感謝しています」と照れ笑いを浮かべました。

昨年からは学校のミドルリーダー的役割である指導教諭に任命され、後進の育成にも力を注いでいます。現在は、同校の恩知理加校長からの依頼で、近隣校の新任教員を指導しています。「教員は23歳でも、60歳でも、求められるレベルに変わりはありません。でも音楽教員は、基本的に1校にひとりだけ。全教科に共通した基本的なことであれば、同僚の先生に教えてもらえますが、専門的な部分に関しては学校内では限界があります。わたしも学外研修で貴重なアドバイスをたくさんもらったので、こうした形で還元できれば」と語ります。偶然にも、恩知校長も、担当の新任教員も大教大出身。大学への恩返しの気持ちがあるようです。

教員として着実な歩みを続けていますが、いまも変わらぬ原点は、生徒たちがいかに音楽に親しみ、自己表現力を育むか。「今後の教員人生をかけて突き詰めていきたい」と意気込みます。そんな鈴川員指導教諭の息抜きは、大自然を楽しむこと。普段あふれている「音楽」が流れない、自然の音空間に身を置くことで、また新たな気持ちで音楽に取り組むことができるようです。

Students Now!

スチューデント ナウ

大教大NAVI 天
インタビュー動画が見られます。

インクルーシブな世界を築くには

学校教育教員養成課程理科教育専攻 3回生　**寺坂 拓馬**さん（岡山県立津山高等学校卒）

昔から困っている人の力になりたいという気持ちが強かったといいます。家族に仕送りを続けながら、進学への学費を稼ぐため4年間ものアルバイト生活を送り、寺坂拓馬さんは22歳で晴れて大教大生となります。そして心新たに臨んだ入学式で、新入生配布資料の中の一枚のチラシに目が釘付けになりました。

“あなたも障がい学生修学支援ルームで支援協力学生になりませんか？”

本学施設「障がい学生修学支援ルーム」では、個々の障がいのある学生に応じて支援を進めています。当時50人を超える学生が支援協力学生として活動しており、寺坂さんも一員に加わりました。「振り返れば、さまざまな障がいのある子とも机を並べて学んでいたので、それが当たり前だと思っていました。でも、通常の学校で入学がうまくいかなかった事例があることを知り、障がいのある子どもたちの学ぶ環境について、支援を通してもっと勉強しなくてはと思ったんです」。この過程で、障がいの有無にかかわらず、すべての子どもが通常の学校でともに学ぶ教育を指す「インクルーシブ教育」の概念を知ります。

寺坂さんは同時に、海外にも関心を寄せていました。ただ、経済的な事情もあり、半ばあきらめていたところ、本学と東京学芸大との連携事業によるタイでの研修に参加できることになりました。「首都バンコクはとてもきらびやかで、日本よりも発展していると思うぐらい。でも、中心地を少し外れると、寂れたボロボロの建物から物乞いをする子どもたちの姿が見え、これもまたタイの現実なのだと知りました」。教育が必要なのに、格差などの社会的課題により与えられない機会。自身の境遇とオーバーラップし、世界の教育の実情についても、もっと見聞を広めたいと願うようになります。

世界との距離がぐっと縮まったのは、研修から帰って間もなくでした。外国語学習支援や、留学生との交流イベントを展開する「外国語学習支援ルーム」が創設されたのです。さまざまな国の留学生と交流を重ね、学生サポーターとしてルームの中心的存在となった寺坂さんは、イベントの企画運営にも積極的に関わるようになりました。一番の思い出は、2回生の時、タイの高校生とインターネットテレビ電話「スカイプ」を使って交流イベントを実施したこと。スシやたこ焼き、とんかつなど、日本ならではの食べ物のイラストを描いた「かるた」ゲームをともに楽しみ、高校生からはタイの伝統文化について紹介を受けました。スクリーンにたくさんの笑顔が映し出され、イベントは大成功でした。

「交流を通して、言葉や文化が違っても心を通じ合わせることはできると確信しました。じゃあ、なぜ世界は平和にならないのか考えたとき、人が勝手に尺度を定めてしまい、それに当てはまらないものを排除してしまうからじゃないかと思ったんです」。そして世界が平和になるための一つの理想、それがインクルーシブ教育だという思いに至ります。「日本の教育システムでは、インクルーシブ教育というと障がい者支援に直結しますが、外国にルーツのある子どもや、セクシャルマイノリティの子どもなど、もっと視点を広げて考えることが重要じゃないかな」

インクルーシブな世界を築くには？「最近気づいたんです。インクルーシブにマジョリティもマイノリティもないことを。一見何不自由ない裕福な家の子でも、人知れず悩みを抱えている子はたくさんいます。子どもたち一人ひとりに対応した教育、それこそがインクルーシブ教育の本質なんだって」

誰かのための新たな一歩を

学校教育教員養成課程数学教育専攻 2回生　**吉村 駿汰**さん（大阪府立泉陽高等学校卒）

吉村駿汰さんは数学教育専攻に通うふつうの男子学生。「数学の概念が根底から変わりました。1+1が2になるのは当たり前ですが、大学では、なぜ2になるのか、その理由をとことんまで追求するんです。でもそれも面白くって、『なぜ1+1は2になるの』って子どもから聞かれた時、きちんと答えられる先生になりたいですね」と同専攻の魅力を楽しそうに語ります。

そんな吉村さんにはもう一つの肩書があります。それは、『ラジオパーソナリティー』。数学教育専攻で出会った友人、ラジオ編集が得意な「きっしー」、150kgの巨体を持つマスコットキャラ的存在「ねっしー」とともに、自主制作ラジオ番組『よっしーきっしーねっしーのシャンシャンいこうぜ！』を、2015年10月から動画サイトYoutubeに配信しています。

大学や数学にまつわるトピックスを、理系男子の視点から、時にユルく、時に鋭く突っ込んでおり、さながら大学広報ラジオといったところ。始めたきっかけは、他大学に進学した友人からの「大教って山しかないやん（笑）」というキツーイ一言でした。「大教大に通うものとして聞き捨てなりません。当時ハマっていたアニメに、廃校の危機にさらされた学校を救うために立ち上がったスクールアイドルの奮闘を描く作品があり、その姿を自分たちになぞらえ、山以外の大学の魅力を全国に発信するべく、ぼくたちもまた立ち上がったのです」

放送回数を重ねるごとに伸びるリスナー数に手ごたえを感じながら、吉村さん自身も、映像のない音だけの世界の醍醐味にとりつかれています。「自分たちの脳内に描いているイメージを、いかにリスナーにわかりやすく表現できるか、たとえ話を交えながらストーリーを紡いでいくのが楽しい。それに、三者三様に急な思いつきを口にするので、アドリブ対応も試されます。これって学校での子ども対応に応用できると思いませんか？」

大阪府立高校32校が結成した「府立高校教職コンソーシアム」加盟校の高校生を対象とした大学体験イベント「キャンパスガイド」では、ラジオで培ったトーク力を引っ提げ、約300人の生徒の前で本学のおすすめポイントをパワーポイントで紹介。3人の小気味よい掛け合いに、会場は爆笑の渦に包まれました。

がむしゃらに駆け抜けた1回生の1年間を振り返り、「動けば何かが変わる」という自信をつかみました。「大学生ってやろうと思えば何でもできるんだって実感しました。1回生の時は最下級生の遠慮があったけれど、2回生になってもっともっといろんな人を巻き込んでいきます。『シャンシャン』では、各専攻の学生をゲストに呼んで、その専攻にまつわるエピソードから大学の魅力を紹介したい」と夢を膨らませます。

未知の世界に挑戦するため、新たな一歩を踏み出す、その原動力はどこから来るのでしょうか？それは一歩を踏み出せない誰かのため。「新たな道を切り開くことは難しいし、すごく勇気がいる。誰かが通った道を行くことは簡単なのに。でも、だからこそぼくが行動を起こすことで、誰かに勇気を与えられるならば、ぼくは迷わず挑みます。ぼくが踏み出す一歩はぼくのためでなく、誰かの新たな一歩のために。そう思っています」とはにかみながらもまっすぐな瞳で答えました。そして忘れてはいけない仲間の存在。「ひとりではちっぽけな力でも、2人、3人と集まれば、2倍、3倍にできることが広がります。志を同じくするきっしー、ねっしーとともに、新たな道を拓いていきます！」

VISIT THE LAB ラボ訪問

大教大NAVI 天
インタビュー動画が見られます。

英語の不思議を解き明かし、現場に還元を

「英語の先生だからって英語の知識があるだけじゃダメ。在学中に英語以外のことも学んで」。英語教育講座の箱﨑雄子准教授は、英語教諭を志す学生にこうアドバイスを送ります。「そのためには、留学も含め、いろんな世界に挑戦して経験値を高めてほしい。会話の引き出しが豊富な、個性ある先生になってください」

かく言う箱﨑准教授の経歴はユニークの一言に尽きます。学生時代には演歌歌手をめざして芸能プロダクションに所属し、ラジオ番組のパーソナリティーも務めました。アメリカ留学を経て、大学院在学中には通訳職も経験。大学院修了後3年間は、アメリカの日本国総領事館で教育広報などを担当しました。

華やかな職歴を経て、研究者の道へ進んだのは、そんな自身の歩みに基づいたものでした。「通訳の仕事を通して、言葉の奥深さを実感しました。言語としての面白さ、奥深さを研究し、成果を教育現場に還元することで、多くの子どもたちに英語に関心を持ってもらいたい。英語を使いこなせればその分未来に可能性が広がりますから」

箱﨑准教授が英語の面白さに目覚めたのは中学時代、ある恩師との出会いからです。「その先生の授業は、言葉の不思議にあふれていました。例えば、breakfastという単語を導入する際に、日本語訳との対比ではなく、『なぜbreakfastと言うかご存知ですか？ breakは破る、fastは断食、つまり夕食後の断食状態をやめるからbreakfastとなるのです』というように、語源から単語を覚えるということを教えてくださいました。先生に教わった『なぜ？』が今のわたしの研究の源です」と語ります。「奇しくもその先生は大教大の卒業生で、昨年本学に着任が決まった時は、いの一番に報告に行きましたよ」

目下の研究テーマは、小学校英語の教科化に伴う小中連携を見据えた英語教育の在り方について。箱﨑准教授は、日本児童英語教育学会と英語授業研究学会関西支部との合同プロジェクトチームに所属し、「45分授業と関連させたモジュール型授業の在り方」を研究しています。

モジュール型授業とは、たとえば1コマが45分の授業を、15分などさらに短くコマ分けして、基礎を反復させる授業法です。45分授業の後に、15分授業を3回続ける「45+15+15+15」型であれば、反復学習の徹底が図れ、45分授業の前に15分授業を組み入れる「15+45+15+15」型であれば、予習効果が期待できるなど、組み合わせによって学習効果はさまざまです。

また、授業の内容については、中学英語の前倒しではなく、児童の実態や発達段階、興味・関心に合わせることが重要だと強調します。「小学生は柔軟な適応力があるので、コミュニケーションへの積極的な態度を育成したり、英語の音やリズムに慣れ親しませたりすることに適しています。実際、小学校外国語活動によって、英語を聞く力が育ってきています。でも、小学生も高学年になってくると、『聞く』『話す』だけでなく『読む』『書く』の欲求も出てきます。それも満たしてあげないといけないので、モジュールの組み合わせパターンと合わせて、現場の先生方と連携しながら、実証授業を展開していきます」と方針を語りました。

研究の息抜きはジャズ。ただし、鑑賞ではなく演奏です。本学着任前は、ライブハウスやジャズフェスで自慢の美声を響かせていました。「教壇もステージも、大勢を惹きつける仕事。一回一回を全力で演じています。学園祭で披露してほしいって？安くないわよ」とチャーミングな笑顔を見せる箱﨑准教授。次から次へと新しい一面が飛び出してきて、底が見えません。

英語教育講座
箱﨑 雄子
准教授
HAKOZAKI YUKO

高校と大学の橋渡しとして

教員生活13年目に入った時のことです。当時高校教諭だった恩知忠司教授は、自分自身が煮詰まっていることに気づきました。「一晩寝かせたカレーのよう。コクはあってもフレッシュさがなくなっている。差し水をするように、新たな学びを取り込まないと、これ以上生徒たちに食いこんでいくことはできない、と思い至ったのです」と当時の心境を表現しました。偶然、大学院への内地留学の募集があることを聞き、これだと即断。35歳にして社会人学生となります。

「不遜にも大学の先生を侮っていた部分がありました。研究者は現場経験に乏しいはず、自分のほうが経験値は高いのだと」。しかし、「わたしが行ってきた指導について、何を意図してそうしたのか、それが子どもたちにどう影響を及ぼしたのか、その一つひとつを掘り下げて問われると何も答えられませんでした。いかに教育的に突き詰めることなく、その場しのぎでやってきたかということを痛感しました。要するに情熱と教師の勘だけだったのです」と振り返ります。「改心」して、自分より年下の指導教官に食らいつき、目の前の事象を論理的、教育学的に解きほぐすことに心血を注ぎました。2年ぶりの教壇で、その真価が発揮されます。「2年前と全く違う自分がいました。不思議なほどうまくいく。これまでならつまずいていたことにもスッと対応できる。真に学ぶ意味を知り、一皮も二皮もむけた爽快な気分でした」

教員生活21年目となる平成16年からは現場を離れ、大阪府教育委員会事務局で10年間、指導主事や参事として、府立高校138校の教育活動全般を担当しました。

そして、平成26年から人事交流により本学教授に就任。高校教諭時代とは180度景色が逆転したようで、「今までは大学へ教え子を送ってきたのが、いまはその教え子を預かる立場です。高校の先生たちの思いも預かっているので、責任も感じますし、同時にこの子たちは先生とどう関わり、結果、どんな教師をめざしているのかを知る面白みもあります」と語ります。

連合教職大学院では実務家教員として、かつての自身と同じ社会人学生と向き合っています。「皆、目的意識が高く、学びなおす理由もとても明確。ただ、一途すぎて視野が狭くなってはいけない。時には立ち止まって周囲をしっかりと見渡してほしい」とアドバイスを送ります。

授業は研究者教員とのティームティーチングで、教育課程をテーマに、それぞれの視点から切り込んで、理論と実践の往還を図っています。即興性に富んだ丁々発止のやり取りに、学生たちから「キラーパスの応酬だ」とのささやきが聞こえることもあるとか。「研究者の理論はハイレベルで、背伸びをしないと届かないこともあり、わたし自身、一人の院生になったような気分で聞いています」

「高校教員から、教育行政、そして大学教員と、自分でも想定外の人生を送らせてもらえました。これからは、その経験を還元するための仕掛けをさまざまにつくっていきたい」と今後の目標を語ります。その一つが、「府立高校教職コンソーシアム」との連携事業です。同コンソーシアムは、次代を担う教員を育成するため、大阪の府立高校32校で結成されました。本学も総力を挙げて、大学体験イベントや教師塾などを通して交流しており、「どちらも知っているわたしが橋渡しにならないと」と意気込みます。

そんな多忙な恩知教授を支えるのが、夕陽丘高等学校で校長を務める、理加夫人の存在。帰宅後も2人でよく教育談義を交わします。「良き理解者であり、ライバルであり、そして目標でもあります。自分はまだ校長を経験していないので」。最近は、同じく高校教諭となった娘の真央さんも加わり、教育談義は一層にぎやかに。教育一筋のDNAは、脈々と受け継がれているようです。

教職教育研究センター
恩知 忠司
教授
ONCHI TADASHI

OKU女子 彼女の気になる

BAGの中身

夢や希望でいっぱいの大教大生のカバンの中を特別に見せてもらいました。

キャンパスではキレイ目スタイルを意識していますが、部活ではすっぴんで走り回ってます!

留学勉強と部活の両立に頑張る
倉岡 侑里奈(くらおか ゆりな)さん
教員養成課程
英語教育専攻 2回生

ラクロスルールブック
ラクロスのリーグ戦では、部員も審判を務めるので、ルールも頭に叩き込まないといけないのです。

UVクリーム
夏は紫外線が強いので、UVクリームはスポーツ女子のマストアイテム！休憩の合間にこまめに塗りなおしています。

TOEFL受験の参考書
いつも持ち歩いて、図書館などで開いています。ずっしり3冊もあるので、早く解放されたい…！

ミラーレスカメラ
大好きなおばあちゃんがくれた宝物のカメラ。勉強のリフレッシュに、植物やラクロス部をカシャカシャしています。

ラクロスカバー
#57はわたしの背番号。部の先輩のお手製で、わたしだけのオリジナルカバーなんです。

勉強も部活も半端にはしない！

通学カバンの大きさに定評のある大教生。あの大きなカバンの中は、どんなお宝が詰まっているのか!? 広報スタッフがキャンパスを行き交う学生たちを物色していると、1m以上あるラクロスラケットを持ち、大きなカバンを肩にかけて歩く女子学生の姿が。彼女の名は倉岡侑里奈さん。2回生の女子ラクロス部員です。

早速カバンの中を拝見すると、財布、定期券などの必需品や身だしなみグッズのほかに、英語の参考書や電子辞書が。なんと現在、交換留学制度を利用したアメリカ留学に向けて受験勉強の真っ最中。「いろんな国の人と友達になりたいし、母国語での英語教育がどんな風に展開されているのか、この目で見てみたいんです！」

勉強に追われる日々ですが、部活にも全力で、「皆とプレーできるのも今年が最後。レギュラーの座をつかんで部に貢献し、笑顔で旅立ちたい」と宣言する倉岡さん。1部リーグ昇格をめざして奮闘する女子ラクロス部員の大きなカバンには、大きな夢も詰まっていました。

ユニフォームの巻きスカートが超キュート！

勉強の合間の友達とのおしゃべりが貴重な息抜きタイム。「留学したら会えなくなるのが寂しい〜」

❶ラクロスルールブックと練習ノート ❷大学の勉強ファイル ❸マストアイテムのメイクグッズ ❹UVクリーム ❺水筒 ❻筆記用具 ❼折り畳み傘 ❽お母さんの愛情が詰まったお弁当 ❾長財布 ❿電子辞書 ⓫TOEFL受験の参考書 ⓬ハートのカバーが素敵な手帳 ⓭趣味のカメラ ⓮スマホはケースデザインにもこだわり ⓯デザインと実用性を兼ね備えたカバン ⓰女子力高めな定期入れ ⓱腕時計はお母さんからのプレゼント ⓲電車通学の味方、ミュージックプレーヤー ⓳ラクロスラケット

大教大NAVI 天 オフショット動画が見られます。

大阪教育大学
附属学校園ウォッチ
Affiliated School | Osaka Kyoiku University

事件から15年、附属池田小が式典「祈りと誓いの集い」を実施

大阪教育大学附属池田小学校事件から15年となる6月8日(水)、今年も同校で、追悼式典「祈りと誓いの集い」があり、児童、保護者、教職員など約1300人が出席しました。午前10時12分、事件で犠牲となった8人の名が刻まれた「祈りと誓いの塔」の鐘が鳴らされ、出席者全員が黙とうを捧げました。

今年は式典の前に、事件で亡くなった戸塚健大くん(当時6歳)の母親の正子氏が講演しました。戸塚氏は事件直後から現在に至る心境を明かし、「多くの保護者の皆さんや、当時の先生方の支えがあり、この日まで歩み続けることができました。池田小全体も、命の大切さを礎とした安全教育の精神を、今日に受け継いでいると信じます」と語りました。そして、「この世の中が、安全安心な学校生活を送れる幸せな社会となるよう切に願います」と訴えました。

式典では佐々木靖校長が戸塚氏の言葉を受け、「教職員と保護者が、事件の風化を防止する当事者であることを自覚し、学校安全の推進に向けて力を合わせないといけません」と述べました。そして、出席した6年生児童に向けて、「この祈りと誓いの塔に刻まれた8人の名前を忘れず、人を守る側の人間になってください」と語りかけました。

続いて、6年生の代表児童3人が、安全教育を通して学んだ命の尊さや安全を願う心を、下級生たちに伝え続けていくことを誓いました。

式典後も、「祈りと誓いの塔」の献花台には同校の児童と保護者による長蛇の列ができ、献花した児童から「天国で幸せに暮らしてほしい」といった声が多く寄せられました。

ゼミ室こぼれ話 第1話

《 家政教育講座保育学研究室 》

育児をする父親“イクメン”の元祖、小﨑恭弘先生が担当する保育学研究室は、男子1人、女子5人で、ぼくは紅一点ならぬ白一点。でも、男女の分け隔てなく、アットホームな雰囲気です。ゼミ室名物は、赤ちゃん人形のやすひろくん(仮名・♂)。正しい抱き方をマスターできるように、重さは約3000gと生まれたての赤ちゃんの体重を想定していて、首も据わらないようつくられています。肌の触感もむちむちでなかなかリアルですよ。

研究室では、子どもを取り巻く環境を調査し、現代社会にマッチした子育て支援を研究していて、父親育児も対象のひとつです。実はぼくの父もイクメンで、家事も育児も母と分担していました。そんな父を見ていたので、ぼくも家事は一通りできるし、結婚して子どもができたら育休を取って一緒に子育てしたいと思っています。でも、父親の育休って、女性の皆さんどう思います？ともに子育てができてうれしい？収入減だし、出世も心配で有難迷惑？研究室の女性陣と語り合ってみようと思っています。

ずいぶん蒸し暑くなって、研究室の冷蔵庫で冷えている麦茶も、減りが早くなってきました。気がついた人が沸かすことになっているはずなんですが、だいたいその役目は小﨑先生がぼく。おーい、みんな麦茶できたよー。

(石田 文弥さん 大学院1回生)

〈キリトリ〉

天遊 vol.38 アンケート

●本号でよかった記事を下から選んでください。
(3つまで。その他は具体的にお書きください。)
【　　】【　　】【　　】
(その他　　)

①HATOプロジェクト ②新任役員紹介 ③手をつないで
④卒業生キャッチ ⑤STUDENTS NOW! ⑥ラボ訪問
⑦BAGの中身 ⑧附属学校園ウォッチ ⑨ゼミ室こぼれ話
⑩TOPICS

●取り上げてほしい記事がありましたらお書きください。
(　　)

●本誌をどこで手にされましたか。
(　　)

●本誌をお読みになってのご意見・ご感想などをお聞かせください。

●次号以降、毎号『天遊』の送付を希望される方は記載をお願いします。
(一度、送付希望ハガキをいただきました方は、再度お申し込みは不要です。)

どちらかに☑をしてください	□ 次号以降、毎号『天遊』を送付希望します。 □ 今後『天遊』の送付を停止します。
ご住所 〒	
お名前	
お電話番号	

※お預かりした個人情報は広報誌「天遊」の送付以外には使用いたしません。

〈キリトリ〉

01 学生がキューピッドに！入試広報の新プロジェクトがスタート

学生が愛のキューピッドとなり、本学と母校を結びつける新プロジェクト「大教大キューピッド」がスタートしました。同プロジェクトでは、学生が母校に凱旋し、自身の学生生活を紹介したり、大学体験イベントで高校生と交流したりするなど、学生が主役となって入試広報活動を展開します。

100人を超える学生の応募があり、6月1日（水）の説明会にはそのうちの31人が参加して、概要説明に熱心にメモをとっていました。プロジェクトを統括する広報担当の中西正人理事は、「多くの受験生に本学の魅力を広めるために、こんなにも熱意ある学生が志願してくれてうれしい。高校生とふれあい、つながるとともに、皆さん自身の人間力を高めるためのツールにしてほしい」と呼びかけました。また、推進役の恩知忠司教授は、「大学の最大の魅力は学生。ぜひ皆さんの若い力で、次世代人材を育成するプログラムをつくり上げてほしい」とエールを送りました。

同説明会では、参加学生を「大教大キューピッド」に任命する任命書も授与され、代表して中西理事から証書を受け取った朝比奈紀子さん（人間科学専攻1回生）は、「緑に囲まれ, 個性豊かな学生たちが行き交うキャンパスの魅力を後輩たちに伝えたい」と意気込みを語っていました。

02 日本選手権水泳競技大会で本学職員が3位入賞に輝く

第92回日本選手権水泳競技大会が4月4日（月）から10日（日）の期間に、東京辰巳国際水泳場で開催され、本学から現役学生6人、卒業生1人が出場しました。同大会は、8月に開催される第31回リオデジャネイロ五輪競技大会の代表選手選考会を兼ねている特別な大会です。

本学出場選手の中で、卒業生であり、現在本学職員でもある小林奈央さんが100mおよび200mのバタフライ種目で決勝に進出し、200mで3位、100mでも4位に輝きました。五輪切符をつかむにはあと一歩及びませんでしたが、代表内定選手と健闘を称えあいました。

小林さんは、「本気で五輪代表を狙いましたが、派遣標準記録を突破することの難しさを痛感した」と語りました。今後については「決勝という大舞台で戦えた幸せを忘れず、代表を逃した悔しさをバネに、仕事と競技を両立しながら一年間頑張りたい」と抱負を述べました。

〈キリトリ〉✂

料金受取人払郵便

柏原局
承　認
311

差出有効期間
平成29年
2月28日まで

切手不要

郵便はがき

5 8 2 − 8 7 0 5

（受取人）
大阪府柏原市旭ヶ丘4−698−1
大阪教育大学広報室 行

✂〈キリトリ〉

※該当する番号を○で囲んでください

あなたのご所属を教えてください

①本学学生	②本学卒業生	③本学保護者
④本学教職員	⑤附属学校生	⑥附属学校保護者
⑦附属学校卒業生	⑧附属学校教職員	⑨名誉教授
⑩教育委員会関係者	⑪他大学教職員	⑫他大学学生
⑬その他（　　）		

公式facebookページを開設しています
https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv

公式Instagramページを開設しています
https://www.instagram.com/osakakyoikuuniv/

速報ニュースや公式ウェブサイトに掲載している情報を中心に、本学を身近に感じてもらえる記事、写真や動画などを配信しています。是非フォローしてください。

公式アプリケーション
Android・iOS
スマートフォン対応アプリ

天遊の動画も見れる

大教大NAVI
大阪教育大学入試ナビゲーター

取材時のオフショットや、紙面では伝えきれないイキイキとした学生・熱意のこもった教授などのナマの声を動画で配信!
〈詳しい使い方はホームページをご参照ください〉

App Store・Google Playから検索。
Available on the iPhone App Store　ANDROID APP ON Google play　大教大

「天遊」とは

「天遊」とは荘子の言葉で、人間の心の中に自然に備わっている余裕を表しています。キャンパス統合移転の記念碑に銘文として刻まれており、揮毫は故水嶋昌（山耀）本学名誉教授によるものです。「天遊」の読みからとった「TenYou」は、「十人十色、その中のあなた」というメッセージを込めています。

本誌はユニバーサルデザインフォントを使用し、再生紙に印刷しています。
この印刷物は、16,000部を768,000円で、すなわち1部48円で作成しました。

[天遊 vol.38] 2016年7月発行 企画・編集・発行／国立大学法人大阪教育大学広報室 〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1 TEL.072-978-3344 FAX.072-978-3225 E-mail kouhou@bur.osaka-kyoiku.ac.jp